

サキ タ トモ コ
崎田 智子

Tomoko SAKITA

講演

研修

コンサルティング

学術調査

コメンテーター

所属・職名

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科 准教授

研究分野

言語学、語用論、認知言語学、英語学

研究活動

伝達言語を多角的視点から研究しています。自己を取り巻く外部世界をどのようにとらえるか、発話行為やコミュニケーションをどう受容し理解するか、の話者の認知様式に加えて、談話・情報構造、スタンス等がどのように言語事象を規定しているかを研究しています。特に、発話内容、言語形式、意味等は、対話の中で文脈に依存してお互いの視点の違いを認識し得るだけ共感し合い相互連携を模索する中で創り出されるものですが、この対話の相互作用における創造的な発話産出メカニズムとその背後にある認知メカニズムを探究しています。

主要な業績
(著作・論文・研究
発表)

[著書] Reporting Discourse, Tense, and Cognition. Elsevier Science. (市河三喜賞) 2002、
『言語運用のダイナミズム:認知語用論のアプローチ』研究社 2010、[論文]"Discourse markers as stance markers." Pragmatics & Cognition 21:1 2013. 「対話における発話の創発-認知と対話のインターフェース」『言語の創発と身体性』ひつじ書房 2013. "Parallelism in conversation." Pragmatics & Cognition 14:3 2006. "Discourse perspectives on tense choice in spoken-English reporting discourse." In T. Güldemann & M.V. Roncador, eds. Reported Discourse: A Meeting Ground for Different Linguistic Domains, J. Benjamins, 2002.

社会活動・その他

所属学会

日本英語学会、日本言語学会、日本語用論学会、日本認知言語学会、全国
大学英語教育学会、テキスト談話学会、アメリカ言語学会、国際語用論学会

キーワード

言語運用のダイナミクス、談話情報理論、伝達言語のメカニズム、英語教育、発話構築と認知のしくみ、ジェンダー教育における性差別と言葉、謎と言語、進化と言語

https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/100008/100008_Researcher.html